

主題 豊かな心と確かな学びをはぐくむ学校図書館

1 単元名 本のすいせんをしよう

2 単元の目標

- 読書すいせん会を通して、宮沢賢治のさまざまな作品に触れて自分の考え方を広げたり深めたりし、読書に親しもうとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 物語を推薦するために、登場人物の行動や会話、場面などについての優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめることができる。 (読むこと エ)
- 本や推薦の文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりできる。 (読むこと オ)
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて、意識してポップの文章を読むことができる。 (言イ (カ))

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
・読書すいせん会を通して、宮沢賢治のさまざまな作品に触れて自分の考え方を広げたり深めたりし、読書に親しもうとしている。	・物語を推薦するために、登場人物の行動や会話、場面などについての優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめている。 (読むこと エ) ・本や推薦の文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (読むこと オ)	・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて、意識してポップの文章を読んでいる。 (言イ (カ))

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、「宮沢賢治の世界が伝わるように本をすいせんしよう」を単元を貫く言語活動として位置づけた。本単元では、「雪わたり」を学習した後、ポップを用いて宮沢賢治の他の本を推薦する活動を行う。

「雪わたり」で学習した宮沢賢治の独特の世界観をポップに盛り込ませるようにしたい。そのためには、登場人物や情景描写、比喩などについて作品をよく読み込む必要がある。このような活動を行うことで、優れた表現を味わいながら作品の魅力についての考えを深めることができ、本を楽しむ機会につながると考える。児童は「雪わたり」の学習を進めながら、「雪わたり」と同じ宮沢賢治の「注文の多い料理店」「どんぐりと山猫」「やまなし」「セロ弾きのゴーシュ」「虔十公園林」「猫の事務所」の6冊の並行読書を進めていく。その後、並行読書をした作品でポップ作りを行うことで、賢治作品の特徴的な表現が様々な作品に生かされていることに気付くきっかけになると考える。また、作品の魅力を一言で表すキャッチコピーを入れるというポップの特性を生かし、効果的な言葉の選び方や使い方にも気付くことができるだろう。

これまで児童は、4年生の「読書発表会をしよう」で、各自が決めたテーマにあった3冊の本をブックトークの形で紹介する学習をしている。しかし、短いキャッチコピーのような言葉や、人の目をひく形式

で推薦するといった活動は初めてである。教科書に様々な推薦方法が例示してあり、児童は見通しをもちやすい。絵や形、本の内容のまとめ方、推薦の言葉などを工夫し、お互いに発表し合うことによって、本の世界を深めていくようにしたい。

また、それぞれの作品の魅力について自分の考えを伝え合うことで、人によってものの見方や考え方に違いがあることや、効果的な推薦の仕方に気付かせていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

○互いの考え方や感じ方の違いを比べ合いながら、いろいろな作品の良さを見つける力を育てる

本単元では、ポップを使って、自分や友達が見つけた作品のよさを交流し合う活動を行う。児童たちは、同じ作者の作品を読み比べた経験があまりない。そのため、友達の発表を聞く際にはワークシートを用いて、作品のよさを後から比べられるように工夫しながら聞くようにしたい。また、友達の推薦理由から、新たな本のおもしろさや特徴に気付かせるようにしていきたい。

○推薦するためにふさわしい短い言葉で推薦の文章を書く力を育てる

本単元では、ポップを見た人が思わず読みたいと思うような端的な言葉で推薦文を書く必要がある。しかし普段から書くことに苦手意識をもち、書き出しの糸口をつかむことのできない児童が多い。そのため、図書館指導員の作成したポップなど、ポップの見本を教室に展示したり、ポップを作る際のアイデアを掲示したりすることで、イメージをもちやすくさせたい。また、友達と交流する中で、話の組み立てや提示資料の工夫の仕方にも気付かせていきたい。

(3) 研究の重点との関連

(本年度の研究の重点)

- ①豊かな心をはぐくむ児童、児童の読書活動推進に関する研究
- ②確かな学びをはぐくむ学校図書館活用に関する研究
- ③学校図書館の運営に関する研究

○図書館指導員との連携

本校の学校図書館に、宮沢賢治の本は整備されているが、宮沢賢治の本を全く読んだことのない児童がいる。そこで、学習に入る前、図書館指導員に宮沢賢治のブックトークをお願いした。また、教頭先生による宮沢賢治「虔十公園林」の読み聞かせを行った。これらの手立てが、宮沢賢治の世界を楽しむよききっかけづくりになると考える。

○学校図書館との連携

本校の学校図書館の掲示は、図書委員会が作成した紹介カード、もしくは図書館指導員や職員の作成した掲示物がほとんどである。本単元で作成したポップは、図書室に掲示することにする。これにより、自分の作品が全校児童に読まれる喜びを味わい、個々の児童と学校図書館とがつながるきっかけになることを期待している。

5 児童の実態

実態調査から、本学級の多くの児童が読書を好んでいることがわかる。毎週2回の朝読書の時間は20分読書を静かに楽しんでいる。少し空き時間があると、本を読む児童が多く、読書が習慣化されているが、その一方で読書を好まない児童もいるので、本への興味をもたせることが必要となる。そのため、図書館指導員のブックトークや教師による読み聞かせを行い、読書へのきっかけづくりをしたい。

本学級の児童は、友達が読んでいた本に最も興味をもちやすく、絵やタイトルなど、視覚的な情報をもとに、ぱっと見てひかれる本を選ぶ傾向にある。そこで、今回はポップを使って本を紹介する学習を設定した。視覚

的で、なおかつ友達からの紹介となるポップは、本学級の児童に合った学習であると考え。

宮沢賢治の名前を知っている児童は6割で、知らない児童も多い。宮沢賢治の本が本校の推薦図書として設定されているが、すでに宮沢賢治に親しんでいる児童と全く読んだことのない児童の差が大きい。グループ活動を行う際、話の内容を全員が把握していた方が話し合いの質が深まるため、賢治作品の特徴がわかりやすく、ストーリーをくみ取りやすい次の6冊を選定した。（「注文の多い料理店」「どんぐりと山猫」「やまなし」「ゼロ弾きのゴーシュ」「虔十公園林」「猫の事務所」）そして全員が作品を事前に読めるよう、団体貸出などを利用しそれぞれ数冊ずつ準備した。

また、本学級の児童は書くことに対して苦手意識をもっている児童が多く、今までにポップで紹介する経験がない児童がほとんどである。書き出しを迷っている児童には、ポップを作る際のアイデアを掲示物として用意したり、参考にしやすいポップをそばにおいてレイアウトのヒントにしたりして、書きやすいように手立てをとる必要がある。そして、作ったポップは図書室に掲示することを知らせ、目的意識をもたせて学習に取り組ませるようにしたい。

6 単元指導計画（全11時間）

時	学 習 活 動		○指導上の留意点 ◆評価
1	○「雪わたり」の学習全体の見通しをもつ。 ・宮沢賢治作品のポップを作ることを確認し、ポップに必要な情報を考える。	↑ 並 行 読 書 ・ 読 み か せ	○教科書から、「読書すいせん会」のイメージをもたせ、並行読書を進めておくように伝える。 ◆ポップに載せる情報を把握し、学習の見通しをもっている。（ワークシート）
2	○登場人物の性格について考える。 ・登場人物3人の性格がわかる部分に線を引		○「雪わたり」の特徴をとらえ、この特徴が作成するポップに活かされるようにする。
4	いて、3人の心情の変化を読み取る。 ○表現の工夫について考える。 ・リズムのある表現について線を引き、表現のおもしろさを、音読を通して感じ取る。 ・たとえを使った情景描写に線を引き、比喩が多く使われていることに気付く。		〈おもしろいところ〉 ・登場人物の相互関係や心情の変化 ・リズムや繰り返しなど表現の工夫 ・比喩的な情景描写
5	○「雪わたり」のおもしろさを考えて、発表し合う。 ・他の宮沢賢治の作品について、おもしろいところ、表現の工夫を見つける。		◆物語の構造をおさえ、「雪わたり」の特徴をまとめている。（ワークシート）
6	○ポップに載せる情報を確認し、「雪わたり」の		○他の賢治作品にもその特徴が出ているのか、今まで並行読書を進めてきた本を読み返しながらワークシートにまとめるようにする。
7	ポップを書く。 ・作品名・作者名・キャッチコピー・紹介文を入れながらポップを完成させる。		◆読書を進めながら、本の魅力を表にまとめている。（ワークシート）
8	○「読書すいせん会」の目的や方法を確認して推薦する理由を考えながら図書を選び、ポップの下書きを作る。	↓	○ポップを大きく拡大して掲示し、必要な情報をひとつひとつ出させるようにする。 ◆自分の感じた「雪わたり」の魅力を入れながら、ポップを作っている。（ポップ）
			○「雪わたり」で作ったポップを確認しながら、ポップ作りの方法を確認する。 ◆推薦する理由を考えながら、下書きを書いている。（ワークシート）

9 10 11 本 時	<p>○人をひきつけるような文章、レイアウトを考えながら、ポップを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じた作品のおもしろさや特徴が相手に伝わるよう工夫する。 <p>○作ったポップを使って本を推薦し合い、宮沢賢治の作品のおもしろさや特徴を見つけたりポップに入れる効果的な言葉の使い方に気付いたりする。</p>	<p>○どんな言葉が人をひきつけるか、例を出しながらよりふさわしい言葉が選べるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆人をひきつけられるよう工夫をしながらポップを作っている。(ポップ) <p>○自分と友達の意見を比べられるよう、ワークシートにまとめながら発表を聞くようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ポップを読み合い、宮沢賢治作品の魅力や推薦する際の言葉や文章の工夫に気付き、自分の考えをまとめている。(ワークシート)
-------------------------	---	---

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・読書すいせん会を通して、宮沢賢治のさまざまな作品に触れて自分の考え方を広げたり深めたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ・ポップを読んで考えたことを発表し合い、自分の考えと比べ、共通点や相違点を見つけることができる。(読むこと オ)
- ・友達の作品から、語感、言葉の使い方など、推薦する際の言葉や文章の工夫に気付いている。(言イ (カ))

(2) 本時の学習活動

本時の学習では、各自が作ったポップを使い、宮沢賢治の本を推薦し合うことで、宮沢賢治の作品の魅力を見つけたり、効果的な言葉の使い方に気付いたりすることをねらいとしている。

まず、「雪わたり」で見つけた賢治作品のおもしろさや特徴を確認する。その際、「雪わたり」で作ったポップや「雪わたり」を読み取ったときの掲示物を用意しておき、内容を振り返ることができるようにしておく。

次に、グループの友達に自分が読んだ宮沢賢治の本を推薦し、作ったポップを紹介する活動を行う。児童はどの作品も一読しているので、自分の感想と友達のポップを比べながら交流を行うようにしたい。その際、ただの聞き合いにならないよう、友達のポップや説明を聞いて、友達のポップのよかった点をワークシートに記入し、後から特徴を比べたり、よさを見つけたりすることができるようにしたい。

その後、グループで紹介し合ったポップの中から、話し合いで代表作品(ベストポップ賞)を選ぶ。この際、絵のうまさやポップの形が工夫されたものでなく、本のおもしろさや特徴がよく伝わり、推薦に効果的な言葉が使われている作品を選ぶようにさせる。

そして、各グループのベストポップ賞を全体で共有する。この際、発表の際は拡大提示装置を用いて、視覚的にもわかりやすく発表できるようにしたい。

最後に、自分が感じた宮沢賢治作品の特徴やおもしろいところをまとめる。他の作家にもそれぞれ特徴やおもしろさがあることを確認し、これからの読書の幅を広げられるようにしたい。また、ポップから気付いた言葉や文章の工夫を、これからの言語活動に生かしていけるように支援していきたい。

(3) 本時の展開 (11/11)

学習活動	指導や支援の手立て ◆評価 (評価方法)
<p>1 「雪わたり」の内容や表現の魅力について、前時までの学習を振り返る。</p> <p>《児童が見つけた「雪わたり」のおもしろさ・特徴》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムや繰り返しなど表現の工夫 (かた雪かんこ、しみ雪しんこ、など) ・登場人物の相互関係や心情の変化 (紺三郎に警戒していた四郎とかん子が次第に仲良くなり、きつねと打ち解けあっていくなど) ・比喩的な情景描写 (お月様はまるで真珠のお皿です など) <p>2 本時の課題をつかむ。</p>	<p>○「雪わたり」で作ったポップや「雪わたり」を読み取ったときの掲示物を用意しておき、内容を振り返れるようにしておく。</p>
<p>作ったポップを使って本をすいせんし合い、宮沢賢治作品のおもしろさやポップの工夫を見つけよう。</p>	
<p>3 グループで、ポップを使って宮沢賢治の書いた本を推薦し合う。</p> <p>○順番に本を推薦し、ポップを発表する。</p> <p>①Aが自分の選んだ本とポップを紹介する。</p> <p>〈例〉「ぼくはこの本を推薦します。この本は～というお話です。ぼくはこの話を読み、同じ話が何回もくり返されているのがおもしろいと思い、それが伝わるようポップにしました。」</p> <p>②B・C・Dが意見や感想を述べる。</p> <p>〈例〉「わたしもAくんと同じで話のくり返しがおもしろいと思って読みました。Aくんのポップはそのことが上手に書いてあると思います。」</p> <p>「ぼくはこの話を読んで、『雪わたり』のように動物と人間が話をしているところがおもしろいと思いました。くり返しは気付きませんでした。」</p> <p>「Aくんのポップは、『～ですか?』と質問を入れて工夫しているところがよいと思います。」</p> <p>③ ①②をくり返し、グループ全員が本の推薦を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あとで、賢治作品のおもしろさを考えられるよう、友達の発表はメモを取りながら聞くようにする。 <p>○グループの中で、代表作品(ベストポップ賞)を決める。</p> <p>《ベストポップ賞を選ぶポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴・おもしろさが伝わる。 	<p>○グループは違う作品を読んだメンバー4人ほどで構成し、いろいろな作品に触れられるように配慮する。</p> <p>○発表する児童は、自分の読んだ作品の特徴やおもしろさ、何をポイントにポップを作ったのかを伝えるように助言する。</p> <p>○聞き手は、友達の見つけた作品の特徴と自分の見付けた特徴を比べたり、友達のポップのよいところや言葉の工夫を見つけたりしながら発表を聞くことを確認する。</p> <p>○絵のうまさや形の工夫などではなく、内容や表現に着眼点をおくことを伝えておく。</p> <p>○必要に応じて司会メモや発表メモを準備しておき、スムーズに発表できるよう支援する。</p> <p>◆ポップを読んで考えたことを発表し合い、自分の考えと比べ、共通点や相違点を見つけることができる。(発表・ワークシート)</p> <p>◆友達の作品から、語感、言葉の使い方など、ポップの言葉や文章の工夫に気付いている。(発表・ワークシート)</p> <p>○絵のうまさや形の工夫などではなく、内容で選ぶことを再度助言する。</p>

<p>・言葉や文章が工夫され、人を惹きつけるポップになっている。</p> <p>4 各グループのベストポップ賞を発表する。</p> <p>○作品のおもしろさや特徴、ポップで工夫したところを説明しながら発表する。</p> <p>5 ポップの発表や「雪わたり」の学習から、賢治作品のおもしろさや特徴を考え、ワークシートに記入する。</p> <p>・宮沢賢治の作品のおもしろさは、他で聞いたことのない言葉が出てくるところだと思います。</p> <p>・宮沢賢治の作品のおもしろさは、動物と人間が仲良くしているところだと思います。</p>	<p>○拡大提示装置を用い、視覚的にも文章をとらえられるようにする。</p> <p>○ベストポップ賞や雪わたりの掲示から、賢治作品のおもしろさや特徴に気付けるように支援する。</p> <p>◆宮沢賢治のさまざまな作品に触れ、自分の考え方を広げたり深めたりしようとしている。 (観察・ワークシート)</p> <p>○これからもさまざまな作家の本を比べて読んだり、読書週間で行う読書郵便でポップの作り方を生かしたりするよう話し、次の活動へつなげる。</p>
---	--